

2020～2021 年度国際ロータリーのテーマ

ロータリーは機会の扉を開く

●会長 松本 一也
●幹事 福井 学

No.1718 令和 02 年 11 月 18 日 第 18 回例会

※例会日 毎週水曜日 12:30～

※例会場 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内

※事務所 〒860-0846 熊本市中央区城東町4の2 熊本ホテルキャッスル内 TEL 354-4521 FAX 354-4053

※ URL <http://www.serc2720.org> ※ email serc@serc2720.org

ロータリーは機会の扉を開く

■点鐘

■国歌斉唱「君が代」

■ロータリーソング「我等の生業」

■会長の時間

(会長 松本一也)



「成年後見制度について」

現在の成年後見制度は、2000年4月から始まりました。それ以前は、現行の成年後見制度に対応する、禁治産制度がありました。

禁治産者・準禁治産者制度は、旧民法下で定められ、明治31年から現在の成年後見制度ができるまで100年ほど続いた制度です。禁治産者とは、精神障害や知的障害によって心神喪失の状況にあり、一定の利害関係人からの申し立てにより家庭裁判所が禁治産宣告をした人のことをいいます。また、心神喪失よりも障害の程度が軽い心身耗弱者や、浪費者は準禁治産者とされました。この禁治産者という名称は、「財産を治めることを禁じられた者」という意味がありました。

禁治産者は、戸籍に禁治産者であることが記載され、選挙権もありませんでした。この制度は、旧民法時代の、家長制度の下に出来た制度で、家の財産を守るという事を主眼に置いたものであり、そのなかで浪費者を準禁治産者にするという発想が生まれたのだと思います。

そこで、禁治産者・準禁治産者制度は、社会的な偏見や差別をうむなどの問題がありました。既に、私の学生時代から、この制度は禁治産者・準禁治産者を守るものではなく、彼らを、社会から隔離して他の人々を守るための制度だと言う批判がありました。

そこで、障がいのある人も、家庭や地域社会で暮らせる世の中になろうという、ノーマライゼーション(障がいのある人が、障がいのない人と同等に生活し、共にいきいきと活動できる社会を目指す)、本人の残存能力活用、自己決定の尊重の理念のもと、本人の財産と権利を守るために、成年後見制度は発足しました。

しかし、2000年4月から始まった、成年後見制度でさえも、成年被後見人には選挙権はありませんでした。その後、2013年3月に東京地方裁判所において、成年被後見人に一律に選挙権を制限することになる公職選挙法11条1項1号は違憲である旨の判決が下り、公職選挙法が改正され、やっと成年被後見人が選挙権を持てるようになりました。

成年後見制度のなかで、最も活用されている法定後見制度について、見てみたいと思います。法定後見には、「後見」「補佐」「補助」の3タイプがあります。

後見は、本人の判断能力低下の程度がもつとも著しく、「常に判断能力を欠く状態が継続している場合」に適用され、認知症が進行し、自分ではほとんど正常な判断が出来なくなっている場合などがこれに当たります。

補佐は、本人の判断能力が「著しく不十分」である場合において適用され、判断能力が全くないわけではないけれど、一人では適切な財産管理ができないような状態などがこれに当たります。

補助は、本人の判断能力の程度が「不十分」である場合において適用されます。この場合、本人以外が補助人の選任申立する場合は、本人の同意が必要です。

それぞれに、後見人、保佐人、補助人が選任されますが、選任は家庭裁判所に申立てを行い、家庭裁判所が「後見」「補佐」「補助」のどれにあたるかを独自に判断して決定します。

後見人は、法定代理人として、医療や介護、福祉に関する契約をしたり、本人の財産を処分する権限を有していますが、その権限はあくまでも本人の利益のためだけに付与されたものです。そこで、民法は「成年後見人は、成年被後見人の生活、療養看護及び財産の管理に関する事務を行うに当たっては、成年被後見人の意思を尊重し、かつ、その心身の状態及び生活の状況に配慮しなければならない。」として、成年後見人の責務を謳っています。

以上の責務を負う成年後見人は、家庭裁判所に対する報告義務が課せられ、被後見人の財産を私した場合は、業務上横領の罪に問われます。

■幹事報告

(幹事 福井 学)

1) 地区HPに「クレーン車見学&ハロウィーンごっこ」を掲載。

2) 熊本城主 (3件分) - 特別公開ご招待券 (3名分) ~ R 3. 1 0. 3 1 まで。



■委員会報告

(ロータリー財団委員長 村瀬直久)



ロータリー財団寄付のお願い。
11月はロータリー財団月間です。月間に限らずいつでもいいので寄付をよろしくお願ひします。

■今後の行事

11月	11月21日(土)	職業奉仕セミナー	熊本県 熊本市	熊本城ホール
古田哲朗、草村安宏、宮川義行				

■ロータリー情報の時間

(ロータリー情報担当 潮谷愛一)



■委員会報告

(青少年奉仕担当 宮川義行)



11月14日、ローターアクト提唱クラブ協議会が、光の森町民センターで行われました。ここ5年間で半減、東南アクトも現在2名です。主な議題は「今後のローターアクトについて」でした。

・アクト出身のロータリアンで学友会を結成する。

・大学を基盤にしたローターアクトの設立。
・コロナの中で活動費が少なく抑えられていくと思うが、クラブ助成金の減額ではなくアクト会員増強のために使うようにする。といった意見が出ました。

ハラスメントの件では、アクトはロータリアンと同じ立場になって青少年ではないが、ロータリーが守るべき対象には変わらないとの認識です。

碓川ガバナー、永田パストガバナーをはさんで多くの意見ができました。各提唱クラブは真剣にアクト会員増強に取り組んでいます。今後とも皆さんのご協力をよろしくお願ひします。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



くまもとミライパートナーズとは...

熊本を強く、優しく、魅力的にするためのSDGsの活動を積極的におこなっている企業・団体です。

SDGsとは...

「SDGs (エスディージーズ)」とは、「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」であり、国連で採択された2030年までの国際社会共通の目標のことです。世界には、環境・貧困・人権・平和・開発といったさまざまな地球規模の課題があります。これらに向き合い、地球上の誰一人取り残さないための「17のゴール(目標)」と「169のターゲット(具体目標)」で構成されています。

SDGsの17のゴール(目標)

1 貧困をなくそう	あらゆる場所、あらゆる形態の貧困に根絶打撃を	10 人や国の不平等をなくそう	国内および国際的の格差を是正する
2 飢餓をゼロに	長期にわたる飢餓を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な生産を確保する	11 住み続けられるまちづくりを	都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能なにする
3 すべての人に健康と福祉を	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	12 つくる責任、つかう責任	持続可能な消費と生産のパターンを確保する
4 質の高い教育をみんなに	すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する	13 気候変動に具体的な対策を	気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る
5 ジェンダー平等をすすめる	ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女性のエンパワーメントを促す	14 海の豊かさを守ろう	海洋と沿岸資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する
6 安全な水とトイレを世界中に	すべての人々に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する	15 陸の豊かさも守ろう	陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対応、土地劣化の防止および逆転、ならびに生物多様性の損失の防止を図る
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する	16 平和と公正をすべての人に	持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に包摂的なアクセスを確保するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する
8 働きがいも経済成長も	すべての人々の持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を促進する	17 パートナーシップで目標を達成しよう	持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	質の高いインフラを敷設し、世界的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る		

※SDGsには17のゴール(目標)ごとにターゲット(目標)が定められている(ターゲットは計169)。ターゲットについては以下のURLを参照(外務省資料をもとに編集・改定)

■出席報告

(出席・プログラム担当 杉本整哉)

月日	会員数	出席者数	MU	修正出席者数	出席率(%)
11月14日	42 (免3) 39	32	3	35	78.74
11月18日	42 (免3) 39	32			82.05

☆出席免除

11月04日
住江正治 鷲山法雲 島村徹男

11月18日
住江正治 鷲山法雲 島村徹男

☆欠席者

11月04日(4名)
川崎直樹 前田昭博 小野川善久 山坂哲生



■スマイル報告

(親睦・スマイル担当委員
堀内健太郎)



白木誠一 10,000 円



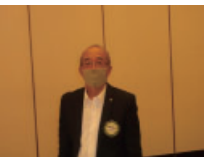
先日小畑会員
の西稜 RC での卓話がありました。RC の世
界大会の流れを楽しく聞かせてもらいました。

◎宮川義行 7,000 円



暖かい日が続いています。今のうちに光をいっ
ぱい蓄えて健康を維持していきましょう。11
月 14 日はローターアクト協議会に参加しま
した。有意義な会議でした。15 日エミナス
での米山セミナーに参加された皆さんもご苦
労様でした。11 月 8 日には 3 部門合同セミナーも行われてい
ます。この時期は毎年地区のセミナーが集中します。21 日の土曜日は
熊本城ホールで終日、職業奉仕セミナーが行われます。ロータリー
学びの季節になります。今年も残りわずか。頑張りましょう、皆
さん。

◎小野川善久 5,000 円



お久しぶりです。先日は家内のお店の 7 周年
に内田会員、中島会員をはじめ沢山の会員の
ご来店ありがとうございました。子どもがこ
のたびイングリッシュスクールに入園し、そ
のお迎えが 12 時前でしたので、例会を 2 回
欠席いたしました。その園は最初から最後まで英語を話さないとい
けないので大変だなと思って、子どもが大丈夫かなあ？と思っ
ていましたが、なんのことはない、毎日喜んで通ってくれてます
ので安心しているしだいです。

■年次総会

●次年度役員理事発表

2021～2022年度 役員理事

会長	吉田 嘉昭	理事	松本 繁
直前会長 (奉仕プロジェクト委員長)	松本 一也	理事	内田 信行
会長エレクト (会員増強委員長)	山田 公也	理事	村瀬 直久
次々年度会長 (副会長) (クラブ管理運営委員長)	中島 祐爾	理事	福井 学
幹事	松岡 泰光	理事	古田 哲朗
会計	永野 昭一	理事	草村 安宏
SAA	松岡歩紗実	理事	杉本 整哉

●会計中間報告会計報告

2020/7/1～2020/10/31 までの会計状況報告

副会計：井村宜敏、矢野敬之

- ・予算に対しての、収入実績と支出実績の説明、
および積立金の 状況説明
- ・会費、スマイル金額の精査と課題
- ・クラブ運営費の状況と課題
- ・40 周年の積立金の予想

■クラブフォーラム

和歌山東南 RC 訪問について (パスト会長 古庄浩二)

■点鐘

編集者 沼田敏雄

2020 年 11 月 11 日 会員卓話 (山田公也会員) 自己紹介

PlanSmart 認定講師



ヤマダ コウヤ
山田 公也

プロフィール

- ・昭和 40 年 2 月 2 日生まれ
- ・熊本県天草市出身
- ・熊本県熊本市在住 熊本東南ロータリークラブ会員

経歴

- ・天草高校→熊本大学工学部応用微生物工学科卒業
- ・鳥越製粉(株)→富士ゼロックス熊本(株)で営業職
- ・メットライフ生命保険株式会社へ転職(2004 年入社)
- ・現在、エグゼクティブコンサルタント(部長)として活躍中!

保有資格

- ・ファイナンシャル・プランナー(日本FP協会会員)
- ・トータル・ライフ・コンサルタント(生命保険協会認定FP)
- ・2020 年度 MDRT 成績資格会員・子育て診断士
- ・相続診断士・AIG 損害保険株式会社代理店 損害保険専業人

趣味

- ・ゴルフ・旅行・ダイエット・マラソン

2020 年 11 月 10 日

児童発達支援事業所「ケ・セラ」でのクレーン車見学&ハロ
ウィーンごっこ



中核的価値観としての「多様性」

投稿日：11 月 13, 2020

ホルガー・クナーク RI 会長とのインタビュー/
「多様性・公平さ・開放性 (DEI)」シリーズ第 1 回

By デイブ・キング (RIBI 『Rotary』誌編集者)

「もちろん、これからの 10 年がどうなるかは誰にもわかりませ
んが、どうなるかと、私たちが果たすべき特別な責任を常に意識
しなければなりません。なぜなら、ロータリーで私たちは公平さ、
寛容、平和という価値観を信じているからです。今まさに、世界
各地で『寛容』の重要性が高まっています。ロータリーとは政治
的な団体ではなく、これからもそうあってはなりません、明らか
に間違ったことがあれば、目を背けることはできません。ロー
タリアンは沈黙してはなりません。私たちは、ロータリーの価値

観と「四つのテスト」を身をもって示します。私たちの真価は、結果だけでなく、態度で試されるのです」ホルガー・クナーク (2020年1月24日)



2020-21年度RI会長
ホルガー・クナーク氏。
ドイツ、ラッツェルブ
ルグの自宅前にて。

今年はじめ、サンディエゴ（米国）で開かれた国際協議会の講演で、ロータリー会長エレクトだったホルガー・クナーク氏がこう語ったとき、その3カ月後にこれらの言葉がいかに予言的なものとなるかを知っていた人はいませんでした。

5月25日、46歳の黒人のアメリカ人、ジョージ・フロイド氏が、約2400キロメートル離れた米国ミネソタ州で、偽札使用の疑いで警察に拘束された際に死亡しました。

この死は世界に火をつけ、これをきっかけに世界中の国が自らの良心を見つめはじめたのです。

それに先立つサンディエゴでの講演で、ドイツ人として初のRI会長に選ばれたホルガー氏は、100年前の話にさかのぼり、母国にも降りかかった当時の苦難について語りました。「この協議会では、異文化について多くのことを学び、寛容の必要性に特に焦点を当ててきました。(中略)今年2020年ですが、今から100年前は『狂騒の20年代』と呼ばれていました。当時の記憶は写真や映画によってぼやけてしまっていますが、現実には、あの10年間に社会の溝がどんどん深まり、悲惨な事態へと向かっていました」

去る8月、ホルガー氏は、数日前に米国ウィスコンシン州で起きた「Black Lives Matters (黒人の命は大切)」抗議者の銃撃事件について振り返り、一連の出来事に危機感を抱いていることを認めました。

「当然、私たちは『なぜこんなことになったのか?』と考えます。不正や人種差別はもちろん容認できません。暴力に暴力で対抗することも、同じく容認できません。米国で起きていることにショックを受けています」

世界が米国に注目する中、ホルガー氏は、米国で起きている「Black Lives Matters」は、ほかの国での抗議運動とは異なると言います。

「どこにでも人種差別があるわけではありませんが、差別はどこにでも存在します。差別と闘うには、歴史をたどり、その根源を見つけなければなりません。インドであれ、日本、英国、ドイツであれ、どこであってもその形は異なります。差別とは、歴史とその起源によって異なるのです。ですから、国ごとに歴史を探る必要があります」

ホルガー氏は、ドイツが第二次世界大戦の恐怖から立ち直りつつあった1952年生まれ。ナチ政権による圧力の下、ドイツのロータリークラブは1937年10月に解散し、国際ロータリーからの脱退を余儀なくされました。戦時中に密かに例会を続けたクラブもありましたが、1948年になってようやく、西ドイツ内でのロータリーの復帰が政府により認められました。

人種問題や差別について考えながら、ホルガー氏は「私の国にはひどい例がたくさんある」と漏らします。「どの国にも、自力で解決しなければならない問題があります。こうした問題は、過去に自分たちが作り出したものだからです。ドイツの場合、暗黒の時代は、戦前の1930年代半ばに始まりました。そのときに数々の問題が生み出されましたが、大半のロータリークラブがそのシステムの一部だったことは確かです。ある歴史家のグループが最近、当時の出来事について一冊の本を出しました。そこに、当時のロータリークラブがユダヤ人の会員をいかに差別したかが書かれています。これは誇れることではありませんが、私は、歴史を消去すべきではなく、そこから学ぶべきだと考えています。心からそう信じています。あらゆる問題について話し合い、未来のために学ばなくてはなりません」

「差別とは、歴史とその起源によって異なるのです。ですから、国ごとに歴史を探る必要があります」

2020-21年度国際ロータリー会長 ホルガー・クナーク

ジョージ・フロイド氏の死から間もなく、国際ロータリーは独自の声明を出し、多様性、公平さ、開放性の大切さをあらためて訴えました。ロータリーは2年ほど前、「多様性、公平さ、開放性」の声明を作成しました。

そしてこの夏、国際ロータリー理事会は、さらなる行動を起こす必要性を認識し、「国際的なアプローチを模索するために世界各地の専門家から成る『多様性・公平さ・開放性タスクフォース』を設置する」ことを決定しました。

ホルガー氏はこう説明します。「これは米国だけの問題ではなく、『Black Lives Matter』の問題でもありません。多様性、公平さ、開放性への異なるアプローチなのです。それぞれの国や文化に合ったかたちで行動に移す方法を、ロータリークラブに紹介できたらよいと考えています。私にとって、多様性はロータリークラブの『願いごと』の一つではなく、ロータリーの中核的価値観の一つなのです」

この問題は政治的だから話し合いたくないと感じる人がロータリーに在ることを、ホルガー氏は認識しています。「話し合いたくないことがあると、『政治的だから』と言うのです」とホルガー氏。「その良い例が、ロータリーの新しい重点分野となった『環境』です。政治的だという理由で、気候変動について話し合うべきではないと言う人が多くいます。私は、環境問題は政治的なものとは思いません。事実、だからこそ重要なのです。明らかに間違ったことがあれば、私たちは『ノー』と言わなければなりません」

(この記事はRIBI発行『Rotary』誌2020年10月号に掲載された記事を編集・翻訳したものです)

ロータリーボイスより